



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	プログラム
Relation	先住民文化遺産とツーリズム：北海道の可能性(International Symposium: Indigenous Heritage and Tourism - Potential in Hokkaido). 2012年10月13日-14日. 北海道大学学術交流会館小講堂, 札幌市.
Issue Date	2012-10-13
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/51242
Type	other
File Information	rogram.pdf



北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2012 国際シンポジウム 先住民文化遺産とツーリズム ― 北海道の可能性 ―

【開催日】2012年10月13日(土)～14(日) 【会場】北海道大学学術交流会館小講堂

プログラム

1日目 10月13日(土) 開場 12:30

13:00	開会のご挨拶	常本照樹(北海道大学アイヌ・先住民研究センター長)
13:05	シンポジウム全体の趣旨説明	加藤博文(北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授)
13:25～14:10	基調講演1 『21世紀におけるパブリック考古学』	ティム・シャドラホール(ロンドン大学考古学研究所パブリック考古学准教授)
14:15～15:00	基調講演2 『考古学者と先住民コミュニティの関係改善における先住民考古学の重要性』	ジョー・ワトキンス(オクラホマ大学ネイティブアメリカンスタディーズプログラム長)
15:00～15:15	休憩	
15:15～15:45	ストーリーテリング 『七五郎沢の狐』	結城幸司(アイヌアートプロジェクト代表)
15:45～16:50	パネルディスカッション	【パネリスト】ティム・シャドラホール, ジョー・ワトキンス, 結城幸司, 岡田真弓(北海道大学アイヌ・先住民研究センター博士研究員) 【司会】加藤博文, 山村高淑(北海道大学観光学高等研究センター准教授)

2日目 10月14日(日) 開場 9:30

10:00	セッション全体の趣旨説明	山村高淑
10:20～12:20	セッション1 パブリック考古学の可能性	【座長】キャロル・エリック(オクラホマ大学ネイティブアメリカンスタディーズ講師)
報告1	『世界遺産知床におけるパブリック・アーケオロジーのとりくみ』	岩波連(北海道大学文学研究科修士課程)
報告2	『過去と今, 人とモノ, 文化財活用の未来』	平澤悠(北海道大学文学研究科修士課程)
報告3	『地域資源としての文化財とツーリズム』	吉原秀喜(平取町役場アイヌ施策推進課主幹)
報告4	『文化環境保全調査の成果を活かしたヘリテージツアー』	長野環, 木村真奈美, 川島五月(平取町役場アイヌ文化環境保全調査係)
セッション1の総括		キャロル・エリック
12:20～13:30	休憩	
13:30～16:25	セッション2 ヘリテージツーリズムの取組み	【座長】山村高淑
報告1	『札幌の文化遺産をめぐる ― 平岸ヘリテージトレイル ―』	門脇こずえ(財北海道アイヌ協会札幌支部国際人権部長)
報告2	『ヘリテージツーリズム WG の取り組みから考えたこと』	原田公久枝(Team Nikaop, Hunpe Sisters 所属)
報告3	『旭川におけるヘリテージトレイル作成に向けての試案』	中井貴規(北海道大学アイヌ・先住民研究センター技術補佐員)
報告4	『増毛方面トレイルの構築にむけて』	門脇賢司(財アイヌ文化振興・研究推進機構アイヌ文化アドバイザー)
報告5	『今と繋げる, 自分で語る ― 沖縄から学ぶヘリテージツーリズムの現在と未来 ―』	高崎優子(北海道大学大学院文学研究科博士後期課程)
セッション2の総括とパネルディスカッション		【パネリスト】門脇こずえ, 原田公久枝, 中井貴規 【司会】山村高淑, 高崎優子
16:30～16:45	シンポジウム全体の総括報告 『2つの考古学的アプローチとツーリズムの可能性』	岡田真弓
16:45	閉会のご挨拶	加藤博文

【主催】北海道大学アイヌ・先住民研究センター 【共催】北海道大学観光学高等研究センター 【後援】札幌市・北海道教育委員会・札幌市教育委員会



北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2012
Hokkaido University Sustainability Weeks 2012